

# 災害に備えたまちづくりを

仙北市では、災害に備え、安全・安心の地域づくりを目指して様々な取り組みが行われています。

## 秋田・岩手8市町村が災害時援助協定を締結

国道13号、46号、106号の沿線8市町村でつくる「秋田・岩手地域連携軸推進協議会(会長 栗林次美 大仙市長)」は、5月23日、大仙市内で大規模災害時相互援助協定を締結する発効式を行いました。協定には、仙北市をはじめ、秋田県側から、秋田市、大仙市、潟上市、岩手県側からは、盛岡市、宮古市、雫石町、川井村が参加しています。

式では会長の栗林大仙市長が「住民生活を守る我々にとって災害対策上、大きな一歩を踏み出せた」とあいさつし、熊坂宮古市長が「太平洋側と日本海側が同時に被災する事態は考えにくく、横軸連携は心強い」と述べました。

協定は、大規模災害発生時に、◇食料、飲料水などの生活必需品の提供◇救援車両の提供◇被災者の救出、医療、防疫などに必要な資機材の提供◇被災者の一時入所施設の提供◇応急復旧に必要な職員の派遣などを相互に援助するとしている他、きわめて甚大な被害で、通信途絶等により被災自治体と連絡が取れない場合でも、被災自治体以外の構成自治体相互が連絡調整し、自主的に援助活動に乗り出すこととしています。



協定締結を祝い硬く手を取り合う市長ら

## 仙北市水防訓練を実施

昨年度まで、大仙市・仙北市・美郷町合同で訓練実施しておりましたが、今年度からは仙北市・仙北市消防団主催にて、去る6月15日、角館町桧木内川河川公園(落合)に於いて、水害に備えた水防訓練の実施をいたしました。

仙北市では、昨年9月の豪雨による、住宅・農地の被害の爪あとが残ったままであり、また、訓練前日、岩手・宮城内陸地震があったばかりで、訓練は実践さながらの状況でありました。訓練の内容は、仙北市消防団第4・5・6・7分団の水防作業隊により、積み土のう工・川倉工・木流し工・シート張り工の4工法の訓練が講師指導のもと行われました。



シート張り工:

水の流れて堤防が削られたり、水が漏れたりしないように、防水シート(マット・畳・むしろ等)を張って堤防を守ります。



積み土のう工:

堤防の上に土のうを積み上げて、水が堤防を越えるのを防ぐ工法です。



川倉工:

長さ2メートルから5メートルの丸太を組み合わせて流水が激突する箇所に槽を充てて堤防決壊を防ぎます。



木流し工:

水の流れが急な時、枝葉のよく繁った木を川に流し、水の勢いを緩やかにして堤防が削られるのを防ぎます。

この度の岩手・宮城内陸地震被災地の方々には、心よりお見舞い申し上げます。

仙北市においては、震度4を観測しましたが、幸い公共施設、各観光施設等の被害はありませんでしたのでここに報告申し上げます。